

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2017.12.No244

12月号

目次

第42回 (一社)北海道建築士会 全道大会(後志大会)を終えて……………1
特集 第42回一般社団法人北海道 建築士会全道大会(後志大会)……………2
青年・女性の怒……………6 [No.84 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]
Coffee Break……………7
information……………8

URL <http://www.h-ab.com/>



第42回 (一社)北海道建築士会全道大会(後志大会)を終えて

第42回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

一般社団法人北海道建築士会 後志支部 支部長 **榎 政信**

第42回全道大会(後志大会)に全道の34支部の会員を始め、秋田県、三重県、大阪府の建築士会や日本建築士会連合会の方々並びに多くのご来賓のご臨席を賜り、総勢346名の参加を頂き、盛大に開催することができましたことに、心から厚く感謝とお礼を申し上げます。

これも、高野会長をはじめ本部の役職員の皆様や道央ブロック各支部の皆様のご支援ご協力の賜物であり、分科会や基調講演に参加していただいた地域の皆様、ご後援いただいた倶知安町、ニセコ町そして管内の町村様にも感謝とお礼を申し上げます。

大会テーマは「NISEKO GLOBAL (ニセコグローバル) ~共生と連携のまちづくり~です。

後志支部管内のニセコ・羊蹄エリアは、国際観光

リゾート地と変貌し、北海道新幹線や高速道路の延伸など観光や交通のハブにもなりつつあります。また、羊蹄山やニセコアンヌプリの山々に囲まれた四季折々の豊かな自然に恵まれ、人々の生活に潤いや地域への愛着をもたらしてくれています。

そんなグローバルな視点とローカルな自然環境や生活文化が織りなすこのエリアで、後志支部が関わってきた活動(くっちゃん型住宅、ニセコ中央倉庫群、新幹線のまちづくり)を題材として分科会を開催していただきました。多雪地域の住まいや暮らし、先人が築いてきた生活文化、高速ネットワークとまちづくりなど地域住民の皆さんも交えた熱心な議論をしていただきました。また、「しりべし空き家BANK」や「しりべし・くつろ木の会」など他団体との連携した活動のパネルもご覧いただけたと思います。

高野誠鮮氏による基調講演では、「限界集落からの脱却」～現実の「ナポレオンの村」～と題し、過疎の村の美味しい米を宝にするなど村を元気にした様々な体験談をとおして、「実行しないと失敗も成功もしない」「失敗し続けたからこそ成功する」とエールを送っていただきました。

終わりに、実行委員会のスタッフとして大会運営に携わった支部会員やサポートいただいた賛助会員の皆様の労に感謝するとともに、この経験を今後の活動や仕事に活かして「まずは行動を」の精神で活躍してもらおうよう祈念し、ご挨拶といたします。



大会式典 高野大会長挨拶



ニセコ中央倉庫群でのB分科会



大いに盛り上がった懇親会



A分科会 (女性委員会)



A分科会コメンテーター 河野 稔氏



B分科会 (まちづくり委員会)



B分科会 (パネラー)



C分科会 (青年委員会 趣旨説明)



C分科会 (参加者の様子)



A分科会コメンテーター 佐藤 裕氏



A分科会 (参加者の様子)



B分科会 (エトセトラ)



B分科会 (エトセトラ)



C分科会 (参加者の様子)



C分科会 (ワークショップ結果発表)



羊蹄山

第42回一般社団法人北海道 建築士会全道大会 (後志大会)

大会テーマ：NISEKO GLOCAL ~共生と連携のまちづくり~

2017.9.30 倶知安町文化福祉センター



情報委員会 (号外編集の様子)



綱領朗読 (傳法 後志支部青年委員長)



実行委員長挨拶 (榊 後志支部長)



式典会場 (エトセトラ)



懇親会 (エトセトラ)



実行委員長挨拶 (榊 後志支部長)



懇親会 (参加者の様子)



大会長挨拶 (高野 会長)



表彰者記念撮影



基調講演 (高野 誠鮮氏)



オープニング (羊蹄太鼓保存会 鼓流)



余興 (「Mt. Youtei Jr. Jazz School」)



次期開催地PR (士別支部)

分科会報告

A分科会 町の原風景へ「くっちゃん型住宅」官民連携の取組み

女性委員会

女性委員会委員

林 和恵（北見支部）



A分科会では、前半に、大会のサブテーマ～共生と連携のまちづくり～の実践例のひとつとして、倶知安町の取組み「くっちゃん型住宅」のガイドライン作成や運用にあたっての経緯、取組み状況等について、倶知安町役場建設課住宅係河野稔様と、建築士会会員でエスワークス建築設計事務所代表佐藤裕様のお二人をコメンテーターとして、行政と企業の立場から、お話を伺いました。

平成6年の倶知安町HOPE計画

で倶知安型住宅ガイドライン造りに参加。平成23年に時代のニーズに合わせ、くっちゃん型住宅研究会を発足し、倶知安型住宅の検証、見直し、検討を重ね、新たな「くっちゃん型住宅」のガイドライン策定、モデルプラン作成に至り、実施状況や倶知安町と建築士会の関りについて報告をいただきました。また、参加した他支部の方から、質問や、地元の取組みの事例のお話もいただき連携に対する関心の高さを改めて感じました。

後半は、実際に建築された住宅を見学しました。外壁には自然素材を活用し、室外機も木材で囲み目立たない工夫がされ、自然景観

と調和した街並みが形成されていました。

今回の分科会が、それぞれの「地域型住宅」の取組みのきっかけとなり、お役立ていただければと思います。

参加者は50名でした。



B分科会 歴史的建造物の再生とニセコエリアのまちづくりを学ぶ

まちづくり委員会

まちづくり委員会委員

山田 直登（空知支部）



ニセコエリアを代表する倶知安町とニセコ町にスポットを当て、グローバルなヒラフ地区、ローカルな倶知安駅前・ニセコ駅前等の町並みをバスで巡ると共に、かつて農産物の集積場として使用された歴史ある倉庫群を再生利活用したニセコ中央倉庫群にて、ニセコエリアの観光やまちづくりを学ぶ事を目的として分科会を開催した。開始10時20分というスケ

ジュールにもかかわらず約80名の参加者には時間通り集合して頂き感謝感謝です。ニセコ中央倉庫群向田館長の講演では倉庫群利活用として ①ニセコらしさを活用した取組 ②人と人とがふれあえる交流の取組 ③地域経済につながる取組 ④町内の各施設・活動等と連携・連動した取組 ⑤継続性のある民間主体の運営といった5つの方針が立てられ様々なイベントが開催されているといったお話をお聞きし、これからもっともっと出会いやアイデアそしてみんなの想いを応援できる空間を目指

していききたいという情熱が伝わってくる講演でした。後半は3名のパネラーを迎えてのパネルディスカッションを開催し、ニセコエリアの広域的な連携についての問題点やコレカラの取組についてパネラーの意見をお聞きました。印象に残ったお話は、「あまり深く考えずにどんどん行動していくことが大切、それがきっかけとなって大きなまちづくりに発展していく」という言葉でした。今後の活動のヒントを沢山頂いた分科会となりました。

C分科会 新幹線が夢を運ぶ!!～倶知安のまちを考えよう2nd Step～

青年委員会

青年委員会道南ブロック長

朝倉 友和（函館支部）



本部青年委員（道南ブロック長）の朝倉です。平素より青年委員会の活動にご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。さて、タイトルをご覧のとおり、2nd Stepと銘を打っております。これは、平成27年に青年の集いが今回の全道大会と同じ倶知安で開催された際に、先ず街歩きをし、そのあとワークショップを行いました。ワークショップでは、「くっちゃん

ん・しんかんせん・まち」をテーマで思い思いのまちづくりを発表しました。この時、「駅前がさみしい」、「時間を潰せる施設がない」、「スポットが必要」など色々な意見が出されました。そこで今回は、『駅前にある【石造りの倉庫】を何かに利用できないか』と考え、前回の続きとして行われた為、「2nd Step」となったわけであり、その倉庫は、とても風情のある、壊すには勿体ない味のある建築物でした。分科会でその倉庫をどのように活用したいのか、住民は何を必要としているかなど、

住民の生の声が必要でした。そこで、地元住民の方々をお呼びして、ご意見を聞き、その声をプランに反映するという今までにない形式で行われました。まさに建築士としての醍醐味であり、皆が真剣な顔つきになり、たまには冗談を交えながらエスキスを完成させました。前回は成果品がありませんでしたが、今回は形にすることが出来たので住民の方々も満足気な感じであり、非常に有意義な分科会だったと思います。

基調講演報告

テーマ：「限界集落からの脱却」－現実の「ナポレオンの村」

情報委員会委員

熊谷 智 (苫小牧支部)



基調講演は石川県羽咋市の日蓮宗住職、高野誠鮮様に「限界集落からの脱却」－現実の「ナポレオンの村」をテーマに講演を行っていただきました。

高野氏はスーパー公務員として、羽咋市で限界高齢化集落の神子原地区における活性化とブランド農作物を作る取り組みを行い、神子原米のブランド化などで、わずか4年あまりで限界高齢化集落

からの脱却に成功し、平成27年7月のTBS系列連続ドラマ「ナポレオンの村」(原案「ローマ法王に米を食べさせた男」)のモデルとなった方です。

この日は、神子原地区の現状から、行政及び農協等に依存しない農業集落の活性化について「ローマ法王へ米を送ったことによる大きな影響」や「地域に残る烏帽子親制度を活用した地域住民と大学生の交流」、「農家だけでつくった株式会社」、「行政による衛星解析ビジネス」などの事業のエピソードが紹介され、ユーモアを交えた

話に、会場は何度も笑い声に包まれました。

高野氏の「机上の理論ではなく、失敗しても自分でやってみることが大切。何度失敗しても成功するまでやる」という自らの体験談は説得力があり、感動いたしました。



「ひとを動かし、まちを動かす」高野 誠鮮氏

情報委員会報告

4号目の号外を発行しました！

情報委員会

情報委員会委員長

早川 陽子 (小樽支部)



平成26年に旭川大会で号外を発行して以来、紋別、室蘭、後志大会で4号目となりました。

最初に後志支部の皆様のご協力に深く感謝いたします。

情報委員会は他の委員会の様に委員が集まり活動する機会はほとんどありません。毎月の会誌の校正はメールが中心。よって、号外は委員が集まり顔を合わせて作業する貴重な時間です。分科会の記

事は事前に担当者の視点であらかた構成はするものの、当日は何が起こるか分かりません。デスクッションでは活発な意見のまとめに苦労したり、見学会では空模様やきもきしたり、ワークショップの雰囲気伝える場面をひたすら待つ、等など。総編集の時間は約2時間。今年の特徴は写真にこだわりました。特に表紙の羊蹄山は雲が切れて姿を現した瞬間を使い、各分科会の出だしの文章と写真との組み合わせは、その場の雰囲気を伝えるように意識しました。

全国でも単独大会を開催してい

るブロックは少なく、北海道ブロックのアピールとして号外を発行を継続してゆきたいと思います。

参加出来なかった方はHPをご覧ください。<http://h-ab.com/>



力を併せて、号外完成！

実行委員会報告

後志大会『NISEKO GLOCAL』を終えて

全道大会実行委員会

大会総務部会長

瀬尾 正宣 (後志支部)



『NISEKO GLOCAL』というテーマのもと支部で実行委員会を立ち上げたのが約一年前。

私が総務部会長を任命され、不安いっぱいの中、まずは少ないスタッフでどう立ち向かうかが一番の課題でした。正直、本当に出来るのかな？と思ってました。

私たちのNISEKOは皆さまご存じのとおりグローバルなエリア

ですが、皆さまにNISEKOの今を体感してもらえよう大会にしたいという気持ちのもと、3会場での分科会開催とバスでの懇親会移動も決まり、実行委員会やそれぞれの部会に分かれ議論を重ねましたが、何とかギリギリで完了し開催日を迎えます。開始早々小さなトラブルはありましたが、本部事務局さんのフォローと実行委員の機転できり抜け、受付も落ち着いた所でホッとしました。

あとは流れに任せて進むだけと

呑気に構えてましたが何事もなくすべてのプログラムを進行し、盛会に終了することが出来ました。

大移動の懇親会も盛り上がりフィナーレを迎えます。その後は倶知安町の酒場へ流れ深夜までGLOCALを楽しんで頂いたようで何よりでした。

最後に、運営スタッフ、本部事務局の皆さまには絶大なるご支援と協力をたまわり、後志大会が盛会に終了することが出来ました事を心より感謝とお礼申し上げます。



「2017女性建築士の集い
in ニセコ」に参加して

荻野 美加 (旭川支部)

今回はニセコの有名建築とラグジュアリーな空間を巡るバスツアーという趣旨で、素敵な建築とニセコの美味しい食べ物に目もお腹も大満足したツアーでした。

10月1日早朝にJRニセコ駅に隣接してあるニセコ倉庫群(旧でんぷん工場)に集合しました。このニセコ倉庫群は、大正から昭和にかけて使われていたでんぷん工場や石造倉庫が立ち並んでおり、近年その役割を終え空き倉庫となっていました。再活用事業により現在はカフェ、イベントやコンサート、講演会などができる施設としてニセコ市民や観光客に利用されているそうです。また、梁には当時でんぷんを作る際に使っていた、とても大きなふるいとそれに連動して動く滑車が乗っており、歴史を尊重しつつも現代に合った使い方ができる建物となっており勉強になりました。

次に倉本龍彦氏設計の“ばあちゃん家”に向かいました。それは人参畑に囲まれた中にぽつんとあり、建物は地面に斜めに突き刺さっているかの様な変わった形でしたが、不思議と周りに馴染みつつそこにありました。家は45年経った今でも改修を重ねきれいな状態を保たれており驚きました。2階のバルコニーは日差しが入り込み、直に風や雨が当たらないようになっており、厳寒時以外はそこでお茶などが楽しめそうで、私は非常に気に入りました。また、室

内はレンガや木、左官などの温かみのある仕上げと北欧家具が上品にレイアウトされていて、夫婦2人で過ごすにはちょうど良いサイズ感でした。この建物を見学して、豊かな大地に佇む素朴な形と日光を上手に取り入れ、寒い外から帰ってきたら温かみのあるこの室内空間に迎えられることで、長い冬も豊かに暮らせる北海道らしい建築の形だと思いました。

次にヒラフ別荘群を散策しました。現代的な建物が立ち並んでおり、まるで外国にいるようでした。

そして、お昼は“ヴィラルピシア”に向かいました。このレストランは、古谷誠章氏の設計で目の前に羊蹄山が広がる好立地にあり、外壁の多数の開口から昼間は太陽光を取り入れ、夜は照明の光が漏れ、国道からもよく映える建物でした。そしてなんといっても食事が最高で、ニセコで生まれた甘くて新鮮な野菜、メインディッシュそしてデザートまで完璧で素晴らしい食事に大満足しました。

今回の集いで、こんな所でお酒を飲んだら楽しいだろうなあと自然と想像させられる建物に出会い、私もこんな設計ができるようにもっと精進していきたいなと元気を頂きました。



“ばあちゃん家”と参加者たち

「博物館 網走監獄」見学会

2017年6月24日(土)

岡沢 奈恵 (北見支部)

女性委員会道東Bブロックでは、博物館網走監獄を見学しました。

この博物館は明治時代の古建築物である旧網走刑務所を移築保存して公開した野外歴史博物館です。開館は昭和58年で、平成22年全面リニューアルを経て現在に至っています。今回の見学会にあたりヘリテージマネージャーの副館長より建物を維持保存し公開するための活動など講義していただきました。その後ガイドツアーで建物や刑務所の歴史を見て回りました。



見学会参加者

中央見張所とそこを中心に五つの舎房が放射状に建つ建物や庁舎など重要文化財と登録文化財、更に当時の刑務所を再現したものがありません。リニューアルしてからの体験型展示も面白く、シアターがあったり、囚人の気分を味わえる監獄食を食べることができたり、いろいろな視点から楽しんで歴史に触れることができました。私を感じた一番は、あの有名な脱獄シーンが再現された囚人の人形を発見した時の子供のリアクションと牢屋の扉をドキドキしながら開けて囚人がいた時に悲鳴を上げてよろこぶ姿は、母になった私と息子で、昔も今も変わらないことに嬉しく思いました。そして、子供の頃単純な好奇心で見えていたものを、大人になって違う見かたで触れることができることは、建物を大切に守っている人達がいることだと感謝できた見学会でした。

余市支部

支部について

支部幹事

芳川 文俊



余市支部は、当初、後志管内の余市町と仁木町の2町を活動区域として、発足しましたが、平成28年に支部規約を改正し、現在は、赤井川村も含め、2町、1村の区域で、活動をしています。

正会員は、23名で、賛助会員5社を含め、計28名の小さな支部です。

会員数は、毎年のように減少傾向にあり、当支部の最大の悩みの種ですが、これからも粘り強く会員数増加に向けて頑張りたいと思います。

当支部の主な活動は、支部総会から始まり、各会議等への参加です。

今年は、9月30日に42回目になります

全道大会が、同じ後志管内の後志支部さんが幹事で、倶知安町、ニセコ町で開催され、榊支部長はじめ後志支部の皆さんの活躍で、大盛況でした。

当支部も4名の会員が、参加させていただきました。

また、当支部の青年委員会についてですが、道央ブロックに属し、各支部との情報交換やコミュニケーションの輪を広げていると聞いています。

先日、10月7日には、毎年恒例になっています、支部の「パークゴルフ大会」が開催されました。

天気にもめぐまれて、望月副支部が、ホールインワンを出すなど、ファインプレーが続出、終始和やかなムードで、行なわれました。

また、プレーの後は、懇親会で大いに盛り上がりました。

余市支部は、これといった、支部特有の事業は行っておりませんが、これからも青年委員会を中心として、少人数ですが、地域に根ざした建築士会活動を行っていきたいと思います。

皆さんにおかれましては、当支部会員が、全道大会をはじめとして、いろいろな行事に参加させていただいた際には、お気軽に声をかけていただきたいと思います。



余市支部 パークゴルフ大会
(余市あゆ場公園パークゴルフ場)

十勝支部

人口減少時代の建築職能

賀陽 弥生子



地方には、利用頻度が著しく減少し、官民の区別なく再投資できない建築が林立しており、特に公共施設のそうした状況が批判的になって久しい。

施設の整備投資に見合う効果が生み出せなかったのは、「人が溜まる空間、交流する空間」を狙った建築計画ありきで、計画を実現する運営上の働きの不在にも起因しており、人口減少という定量的な側面と絡み合った、定性的な地方創生の本質的な課題ではないだろうか。

建築投資が潤沢であった時代は、行政決定の事業ありきで、建築計画が許容されてきた。「ハコモノ行政」と揶揄される時代にあっては、建築行為に慎重になる事業主体周辺における合意形成はもちろん、具体的な運営面の事業計画の必要性を建設事業主体と共有することも、技術者の社会的責任として問われるのでは

ないだろうか。

新築・新設だけではなく、地方に存する利用度が低い施設には、再整備によって、地域課題を解決する可能性が秘められている。

建築計画者や設計技術者は企画段階から関わる立場から、「墓標」を「ゆりかご」に生まれ変わらせる魔法使いとなりうる。

そのためには、施設の運営面（事業の本質）においてアクション（実働）を投入できる、地域おこし協力隊や地方創生プロジェクトの担い手によって構成されるしくみ・組織と、建築設計者や計画技術者が寄り添うことが必要である。ハード整備に関わる技術者と運営企画畑の境目は、まさにグラデーションとなっている。

13年間の民間建設コンサルタントにおける私の職務経歴も、設計業務から、まちづくり系業務を担当する計画技術者へと変遷した。担当業務の縁で、現在は上士幌町役場商工観光課に勤務し、事業主体の立場でまちづくりに携わっている。

上士幌町はふるさと納税制度を自主財

源の獲得に使い、子育て支援や移住を進めるほか、公共施設等再配置計画に基づき市街地へ公営住宅を含めた公共機能の集約を進めている。また、観光庁が推進する地域の稼ぐ力をマネジメントする観光まちづくり法人の設立に伴い、道の駅整備をメルクマールに、国立公園や旧国鉄士幌線の遺構、公共牧場として国内トップの広大さを誇るナイタイ高原牧場レストハウスなど観光素材の再編集を進め、北海道にありがちな「無料の観光」をマネタイズする手法を構築するプロセスにある。

こうした取り組みは、まさに手探りの感覚に満ちている。幸いに、役場の職員も、続々とまちにやってくる移住者も、チャレンジ精神にあふれる老和男女である。

都市の流動性が巻き起こす切磋琢磨が、この地方でも生まれているのだから、見たことのない魔法が、まちづくりにいて実現されるに違いない。

平成30年 専攻建築士登録申請受付のご案内

？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間(平成29年1月～12月)に12単位を取得している
 - ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
 - ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」(要第三者による証明)が3件以上ある
- ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

◆専攻建築士認定申請について

〈受付期間〉平成30年1月4日～2月28日(当日消印有効)

〈申請書〉北海道建築士会HPよりダウンロードできます。

〈申込〉申請手数料(審査手数料・登録料)の振込控えを申請書に添付して北海道建築士会へお申込みください。

◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)

～「専攻建築士制度」とは、消費者に対して専門家として社会に責任の取りうる業務領域(専攻専門領域)を認定・登録し社会に示す制度です。*詳細は(公社)日本建築士連合会HPをご覧ください。

CPD認定プログラム(11月認定)

◆実務に役立つ建築法規解説「第51回建築基準法講習会」

〈日程及び会場〉 11月12日(金) 10:30~16:00
北海道第二水産ビル(札幌市)他18会場

〈単位数〉 5単位

◆建設工事に伴う労働災害・交通事故防止講習会

〈日程及び会場〉 12月14日(木) 13:30~17:00
北海道建設会館(札幌市)

〈単位数〉 3単位

〈上記講習会問合せ先〉

(一社)日本建設業連合会北海道支部
TEL 011-261-6245

◆建築士法に基づく建築士事務所の管理書類等に関する講習会

〈日程及び会場〉 12月6日(水) 14:00~15:30
かでの27(札幌市)

〈単位数〉 2単位

〈問合せ先〉 (一社)北海道建築士事務所協会

TEL 011-232-2424

◆第4回青年委員会

〈開催日〉 11月11日(土)

〈議題〉 1) 平成29年事業報告
2) 平成30年事業計画(案)について
3) 平成30年事業予算(案)について
4) その他(平成30年連絡会議・集いについて)

◆第3回女性委員会

〈開催日〉 11月25日(土)

〈議題〉 1) 平成29年女性委員会の事業報告及び収支状況報告について
2) 平成30年女性委員会の事業計画(案)及び予算要求(案)について
3) その他

関係機関等会議参加予定(12月)

7日(木) 日本建築士会連合会理事会

高野会長・吉木副会長出席

道本部の主な行事予定(12月)

◆第4回理事会

平成29年12月1日(金)

◆第2回情報委員会

平成29年12月2日(土)

◆第3回まちづくり委員会

平成29年12月16日(土)

12月開催講習会のお知らせ

・監理技術者講習

12月15日(金) 札幌市

・応急危険度判定士認定講習会

12月7日(木) 倶知安町

12月11日(月) 帯広市

道士会の動き

道本部の主な会議報告(11月)

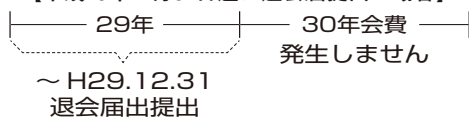
◆第3回事業委員会

〈開催日〉 11月8日(水)

〈議題〉 1) 平成29年事業報告(10月末)及び収支決算見込みについて
2) 平成30年事業計画(案)について
3) 平成30年収支予算(案)について
4) その他

平成30年会費関係スケジュール

【平成29年12月31日迄に退会届提出の場合】



【平成30年1月1日以降に退会届提出の場合】



平成30年会費請求を11月上旬に郵送いたしました。

本会の会費は、年会費(1月~12月)の一括納付平成30年3月31日迄となっております。

年の途中で退会された場合でも1年分の会費が発生いたします。都合によりやむ得ず退会される場合、12月31日迄に退会届を所属支部へご提出をお願いいたします。

※会費の滞納が続きますと会誌の発行、会員としての特典が停止されます。

【お問合せ先】

(一社)北海道建築士会 TEL 011-251-6076

編集後記

「進化する情報誌を目指して」

全道各地から雪の便りが届き、白い季節の訪れとなりました。

12月号のお届けと共に、現委員での編集は最終号となります。

皆さまのご愛読に感謝いたします。

2年間にわたり、連載、取材、提言等、少しずつの進化を試み、今月号は初めてオールカラーページ印刷になりました。

これからも「北海道建築士」をよろしく願い申し上げます。

情報委員会委員長 早川 陽子(小樽支部)

情報委員会委員長/早川 陽子

副委員長/斎藤 勝哉・高松 徹・森 勝利

委員/熊谷 智・柳山美保子・鈴木 雅人

柏倉 晶憲

北海道建築士 No.244号

印刷 平成29年11月/発行 平成29年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地

大五ビル

電話 (011)251-6076番

URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎

〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目

電話 (011)811-7151番